

2021年度森泰吉郎記念研究振興基金研究者育成費成果報告書

研究課題名: 「競技力向上に効果的なアナロジー・オノマトペの検討」

政策・メディア研究科修士1年 小竹珠利亜
julijuli9811@keio.kp

はじめに

私はアスリートの保有するアナロジー（比喩表現）やオノマトペ（擬音語）の効果を検討している。「名選手、名監督にあらず」とは広く言われていることであるが、競技力の高いアスリートには、彼ら特有の身体感覚があることが判明しており（例えば日本記録を叩き出した山縣亮太選手であればクラウチングスタートの際に2,3歩前にあるゴミを拾うなどというようなイメージを持っている）、彼らの動きには我々にも適用できる何かしらの合理性が内在していると考えられている。実際に、私はアスリートのフォーム指導をする機会があり、腰が落ちている（抜けている）アスリートに対して、いくら「腰を高くして」とアドバイスを与えても効果は全く見られなかったにもかかわらず、日本トップレベルの競技力を保有する指導者の方を招いて指導していただき、「頭から糸で吊るされるイメージ」と指示されたところ、アスリートの動きが劇的に変化した。また私が高校生の頃、県の選抜合宿に参加した際にも強豪校の先生から「タタンって踏み切って」「グッと押し」などオノマトペを多く用いた指導を受けたことを思い出した。これらの経験からトップアスリートの感覚を別の競技者に上手く伝達することが出来れば、非熟達者のパフォーマンス向上に効果が期待出来るのではないかと仮説を立てた。しかしながら、現在トップアスリートの持つ身体知を体系的に調査されたものは極めて少ない。そこでトップアスリートの身体感覚を収集し、熟達化の鍵となる特徴や傾向を見つけ出すことを目標としている。

本研究は今後学会発表をする予定なので、詳細な結果報告に関しては控えさせていただきます。ご理解いただきますよう、宜しくお願い致します。

研究概要

アスリートのアナロジー及びオノマトペの把握、また競技レベル、競技特性別のアナロジー・オノマトペの傾向や特徴を検討することを目的としてアンケート調査を実施した。対象は世界大会優勝経験を持つアスリートから非熟達者まで様々なレベル・専門種目のアスリート 847 名である。分析には、松尾ら(2010)や金掘ら(2012)の先行研究を参考に内容分析や比率の差の検定を用いた。結果、競技レベルで比較したところ熟達者（全国大会出場レベル以上）の方がアナロジー及びオノマトペを保有していることが判明した。更にアナロジーに関しては、熟達者ほど external focus に意識を向けたアナロジーを使用していることが明らかになった。

金掘哲也,川村卓,松尾知之,朝岡正雄,山田幸雄,會田宏.我が国の指導書からみた野球の打撃指導における指導者の着眼点:—
動作局面における指導対象部位に着目して. コーチング学研究. 2012, vol. 25, no. 2, p. 149-156.

松尾知之, 平野裕一, 川村卓. 投球動作指導における着眼点の分類と指導者間の意見の共通性: プロ野球投手経験者および
熟練指導者による投球解説の内容分析から. 体育学研究(Japan Journal of Physical Education, Health and Sport Sciences).
2010, vol. 55, no. 2, p. 343-362.

今後の展望

今後は、トップアスリートの保有するアナロジー及びオノマトペを実際に非熟達者に与えることでどのような効果がみられるのかを、行動面、生理面、心理面という多角的指標から検討したいと考えている。本研究は、指導者に恵まれない環境で取り組むアスリートにとっても参考になると考えている。更にアナロジーやオノマトペの効果が検証されれば、他競技でもトップアスリートの持つ身体感覚が重要視され、体系的な調査がより進み、スポーツ界全体の競技力向上に繋がる可能性が考えられる。本研究はその先駆けとなるものであると期待している。

謝辞

森泰吉郎記念研究振興基金から頂いた助成金は、研究を進めるにあたって参考にした書籍の購入や、オンライン学習環境の整備に使わせていただきました。採択・助成していただきましたことをこの場を借りて深く感謝申し上げます。ご支援いただいた責任を果たすべく、来年度も研究に励み成果を残せるよう精進してまいります。